

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.2) メインクエスト



メインクエスト その1

「暁」の役目 ～ ドマの民、ウルダハへ

「暁」の役目

ミンフィリア：なんでも、ここ最近…… 同社が採掘した資源の消失事件が、立て続けに起こっているらしいの。事件捜査にあたっていた銅刃団の報告によれば、内部の者の犯行による、横流しの線を疑っているらしいわ。本来なら「暁」は、そういった、不祥事の調査には手を貸しません。……でも、気になることがあるのよ。それは、消失している資源が、クリスタルに限られているということ。……そう、以前にも同じようなことがあったわね。蛮神「イフリート」を召喚するために、アマルジャ族がクリスタルを強奪していた。蛮神はクリスタルを喰らうことで強くなる…… この事件は、決して見過ごすことができないわ。消失したクリスタルと蛮族の関連性……。わたしたちは、その線を探る必要があります。サンクレッドとヤ・シュトラが、先行して現地で調査にあたっているわ。彼らと「ホライズン」で合流してくれるかしら。わたしは、アマジナ鉱山社に連絡をとって、情報を集めてみるわね。



アルフィン：今後、「暁」は表立った組織として活動していく。いろいろ忙しくなるだろう。君にも期待しているよ。

フ・ラミン：少しでも皆さんの役に立てるよう、ここでお手伝いをさせてもらうことになったの。何かあれば声をかけてね。

イダ：新しいところは、なんだかウキウキするね！ 特訓もはかどるよ！

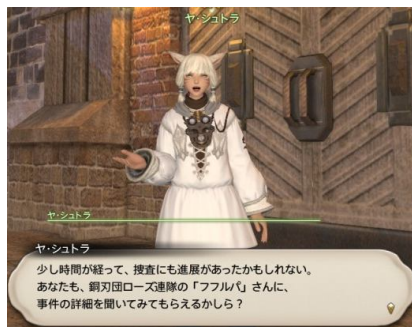
ババリモ：独立した中立の組織ってことは、責任も自分たちにあるってことだ。……はあ、まったく、イダは気楽でいいよ。

ホーリー・ボルダー：ハア……ハア……。イ、イダさんの体力は底無しなのか……。

タタル：「石の家」に、ようこそです！ 今日もお疲れさまです！
受付のヒマをみては、資格を勉強しているです。何でもできるようになって、みなさんを支えていきたいです！

クルトウネ：砂の家のウリエンジェさんの勧めで、「暁」に加わるようになりました。
はやく皆さんに馴染むことができるよう、がんばります。

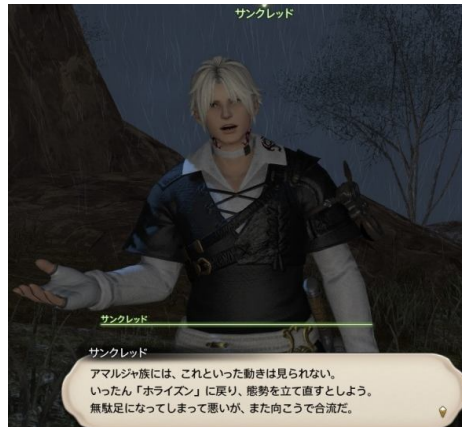
ヤ・シュトラ：◆◆◆、待ってたわ。私は、消失したクリスタルが保管されていた場所を中心に、手掛かりを探しているところよ。銅刃団側の捜査担当者は、フフルバという人物。私が話を聞いた時には、まだ、これといった手掛かりを、見つけていないようだったけど……。少し時間が経って、捜査にも進展があったかもしれない。あなたも、銅刃団ローズ連隊の「フフルバ」さんに、事件の詳細を聞いてみてもらえるかしら？



フフルバ : 捜査の進展についてでありますか？ ……ということは、あなたも、ヤ・シュトラ殿とともに、アマジナ鉱山社の事件を調べているのでありますか！
確かに最近、採掘された資源が忽然と姿を消す事件が、多発しているのであります。
しかし、犯人の手掛かりは、いまださっぱり……
……だったのであります、つい先ほど、積荷を改めようとしたチョコボ・キャリッジが、検問を突破していったのであります！
もしや、消失したクリスタルを運んでいたのでは？ ほかの衛兵からの報告によれば、問題のキャリッジは、東ザナラン方面に逃げたようなのであります！

ヤ・シュトラ : 積荷を改められそうになったチョコボ・キャリッジが、銅刃団の検問を突破したのね？
それも、東ザナラン方面に向かって……。
東ザナランは、アマルジャ族が出没している地域。連中にクリスタルを引き渡すには、もってこいの場所……。
……確かに怪しいわね。
ちょうど「サンクレッド」が、アマルジャ軍陣屋で、奴らの動向を監視しているわ……彼と合流して。
こちらの事情は、リンクパールで伝えておくから。

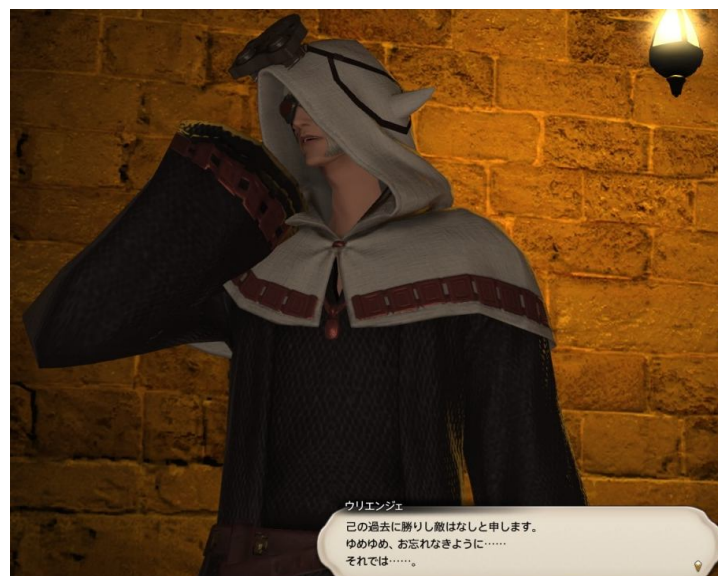
サンクレッド : ご苦労さん、ヤ・シュトラから連絡は受けているぜ。一足違いだったな……件のチョコボ・キャリッジなら、ついさっき、俺が銅刃団に引き渡したところだよ。
しかし、積荷の中身は、御禁制の「ソムヌス香」でね。今回の事件とは無縁の、ただの密輸業者だったってことさ。
アマルジャ族には、これといった動きは見られない。いったん「ホライズン」に戻り、態勢を立て直すしよう。
無駄足になってしまって悪いが、また向こうで合流だ。



ヤ・シュトラ : ……今回の件はアマルジャ族とは無関係だったようだけど、一連のクリスタル消失事件との関係を否定するには、決め手に欠けると言わざるをえないわ……。

サンクレッド : おう、戻ったか。この辺りでの、クリスタルの強奪に人拐いときたら、アマルジャ族の仕業ってのが相場なもんだが……
今のところ、アマルジャ族の動きとクリスタル消失事件との関連は見えないな。
奴ら、度々か「イフリート」を呼んでいる形跡はあるが、溜め込んでいたクリスタルを使っているようだし……。
決定的な情報がなくて、断定ができないな。
砂の家に残っているウリエンジェにも、事件に関係しそうな動きがあれば、こちらへ連絡するように伝えておくとするか……。
さてと……。
俺だ、サンクレッドだ。伝えておきたいことがあってね。

ウリエンジェ : ……ええ、わかりました。何か動きがあれば連絡しましょう。
それはそうと……サンクレッド。時折、あなたを訪ねて女性の方がいらっやいます……。如何に応じるべきでしょう？
……なるほど、無難に……ですか……。なれば、答えはレヴナンツトールにありと伝えましょう。
貴方の想い人、あるいは仇敵は北方にあり、と。
己の過去に勝りし敵はなしと申します。ゆめゆめ、お忘れなきように…… それでは……。



???? : 我々は、東方の「ドマ」からやってきたものだ。どなたか、この国の王が何処におわすか、教えてはいただけぬか？



クリスタル消失事件

サンクレッド : そういえば、ヤ・シュトラによると、銅刃団のフフルバくんが、何やら気になることを見付けたらしい。クリスタル消失事件の調査状況も気になるし、俺たちも「フフルバ」くん話を聞いてみよう。

ヤ・シュトラ : ……それで、クリスタル消失事件についてあなたが気づいたことというのは、いったい何なのかしら？

フフルバ : 事件の共通点を、洗いなおしてみたのであります。すると、一連の事件は、銅刃団の警備網のスキを確実にしているということがわかったのであります。警備体制は臨機応変に変えているにもかかわらず、毎度、警備のスキをつかれ、事件が起きていたのであります。……これは内部の情報を知らない限り、不可能であります！

サンクレッド : なるほど、情報が漏れているのは確実なようだ……。……状況から察するに、銅刃団に、間諜が紛れ込んでるとみて間違いないだろう。

ヤ・シュトラ : ……ながら、その間諜を逆手に取りましょう。偽の採掘作業情報を流し、意図的に警備を薄くする……そうすれば犯人が寄ってくるはずよ。

サンクレッド : エサをまいて、釣り上げるってわけだな？ ……で、いったいどんな美味しいエサをまくつもりだ？

ヤ・シュトラ : 私が鉱山社付けの採掘師に変装して、嘘の採掘作業を行うの。相手も、女の方が油断するでしょうから。サンクレッドたちは、物陰で潜んでいて。

フフルバ : ご協力、ありがとうございます！ ……でしたら、サンライズ門の南にある、金槌大地へ通じる橋のたもとが、うってつけであります。

サンクレッド : ふむ……ながら、俺は南側に隠れよう。◇◇◇は、北側を頼む。地図に印をつけておくから、後で確認してくれ。

フフルバ : 早速、ローズ連隊に皆に、警備体制の変更を連絡してくるであります！

サンクレッド : 準備は整ったな……よし、差せんかいしだ。さてさて、いったいどんな獲物が連れるやら……。

ヤ・シュトラ : ご苦労さま、どうだった？ ……なるほど、犯人はアマルジャ族ではないのね。

サンクレッド : こちらも片づけたぜ。連中は、ガタイがいいゼーヴォルフばかり。その上、無駄に口が堅いときたもんだ……うんざりだぜ。

ヤ・シュトラ : ゼーヴォルフばかり……。ウルダハに多いルガディン族といえば、ローエンガルデよ。……ということは流れ者？

サンクレッド : さあてね、どこから来たのかはわからないが、そろいもそろって、顔に青い刺青をいれている、不気味な連中だったよ。

ヤ・シュトラ : 顔に青い刺青……？ もしかして……。……連中に心当たりがあるわ。調べに行ってくる。



サンクレッド : それじゃ、俺たちは、いったんホライズンに戻り、「フフルバ」くん銅刃団の動きを聞いてみよう。
んじゃ、向こうで待ってるぞ。

フフルバ : ご苦労さまであります！ 危険な作戦へのご協力、感謝するであります！
銅刃団の内部でも、動きがありました！ 衛兵が一名、行方をくらましたのであります！

サンクレッド : よし来た、銅刃団の間諜も釣れたか！ すぐ、その衛兵を追いかけてよう。

フフルバ : ところがその……襲撃犯の護送のどさくさに紛れて、姿を消したため、どこに逃げたのやらさっぱり……
申し訳ないのであります……。

サンクレッド : くそっ、せっかく釣れたってのに、バレちゃったか。……消えた衛兵の素性については？

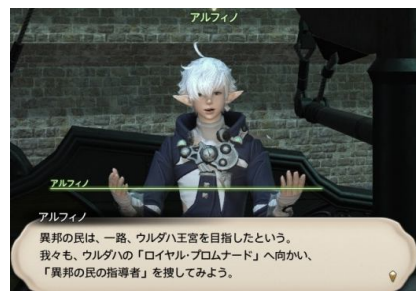
フフルバ : 少し前に入隊した、元冒険者のゼーヴォルフでしたが、アマルジャ族と通じていた様子はなかったのであります。
……とにかく、この件は自分でも調査してみるであります！

サンクレッド : ……となると、後はヤ・シュトラが言っていた、「心当たり」とやりに期待してみるか……。
……ミンフィリアか、どうしたんだ？ ……ふむ、了解だ。
ウリエンジェから、ミンフィリアへ連絡があったそうだ。今度は、ベスパーベイで問題が発生したらしい。
その件で、俺たちにも指示があったよ。やれやれ大忙しだ……人気者の辛いところだな？

異邦からの来訪者

サンクレッド : さてと、盟主さまからの、ありがたい言葉だが……。俺は、ここに残るよう仰せつかったよ。
引き続き、クリスタル消失事件を追うように、とね。
フフルバくんと一緒に、姿を消したという衛兵の線をあたってみようと思う。
お前はベスパーベイへと向かってくれ。現地のアルフィノ様と合流し、彼の手助けをしてほしいそうだ。
よろしく頼むよ。

アルフィノ : やあ◆◆◆、よく来てくれた。ベスパーベイ沖に、ひどく損傷した商船が現れ、そのうちの数名が、この小舟を使って上陸したようだ。
目撃者の話では、どうやら上陸した者たちは異邦の民…… それも、東方の辺境都市「ドマ」から来た難民らしい。
「ドマ」と言えば、ガレマール帝国支配下の属州だ。帝国領内からの難民流出となれば、ただ事ではない。
我々も、状況を把握しておくべきだろう。
異邦の民は、一路、ウルダハ王宮を目指したという。我々も、ウルダハの「ロイヤル・プロムナード」へ向かい、
「異邦の民の指導者」を捜してみよう。



パーソロミュー：ここから先は、神聖なるウルダハ王宮である！ここから先を通すわけにはいかん！

異邦の民の指導者：そこを何とかできないだろうか！
この国の王に、我々の話を聞いていただくだけでよいのだ。時間を取らせるつもりもない。

パーソロミュー：何度言われようと、素性も明らかではない者を、通すわけにはいかん！さあ、お引き取りを！

異邦の民の指導者：……くっ！

アルフィノ：君たちは、ベスパーベイに上陸したという異邦の民だな。揉めていたようだが、いったいどうされたのだ。

異邦の民の指導者：王への謁見を願っていたのだが、にべもなく断られてな……。……何としても、直談判の機会を得ねば！

アルフィノ：待ちたまえ。ここは王宮……下手に騒ぎだてると拘束されるぞ。
私は、アルフィノと言う。ウルダハの民ではないが、この国の権力者に顔が利く身だ。これも何かの縁、私で良ければ話を聞こう。
◆◆◆。私は、彼女たちを連れ、一旦「クイックサンド」へ行く。君もあとで来てくれるか。

異邦の民の指導者：……アルフィノ殿のお仲間か？気が急くあまり、無様なところを見せてしまったな……。

異邦の民の従者：わが主は、祖国を出てからというもの、常に先頭に立ち、苦難に満ちた旅路を導いてくれました。
わが主のお身体が心配です……。

異邦の民の指導者：アルフィノ殿のお仲間の方ですね。どうか我らに力添えを……。

ユウギリ：我が名は「ユウギリ」。我らは、東州オサード小大陸の辺境都市「ドマ」から、海を越えて逃れてきた。

アルフィノ：逃れてきた？あまりよい言い回しではないようだが……。

ユウギリ：我らの故郷ドマは、ガレマール帝国の属州だった。……無論、望んでそうなったわけではない。
少し前の話だ……。帝国内で次期皇帝の座を巡り、内乱が勃発した。我らは、それを好機と考え反乱を起こしたのだが……。
……そう、敗れたのだ。私はドマにいた同族を隠れ里へ逃がした後、残った者たちを先導し、エオルゼアへと落ち延びてきた。

アルフィノ：まさか……。

ユウギリ：ああ、ご想像のとおり。この世には、すでにドマという都市は存在せぬ。帝国による肅清により、文字どおり滅亡したのだ。

アルフィノ：……では、あなた方は、この国に難民の受け入れを求めているのか。

ユウギリ：そうだ。先ほどの港街……ベスパーベイといったか。あの港の沖に、商船に擬装した大型船を停泊させている。
難民たちの多くは、帝国への反乱に参加した者とその家族。我らは、その代表として交渉にきたのだ。
どうか、この国の王、あるいは権力者に談判できればと思い、このウルダハまでやってきたのだが……
門前払いを食らっていたところだったのだ。

アルフィノ：異邦の民がこぞって王宮に押しかければ、そうもなろう。

ユウギリ：だろうな、そこは浅はかだったよ。ドマを脱出してからというもの、ろくに食事も取れず、
船の中には大勢の子どもたちもいる……焦っていたのだ。
それに、ここに来るまでの間、我らと同じような難民らしき群衆をみた。……どうやら、この国もいろいろと複雑な事情らしい。

アルフィノ：なるほど、事情は理解できた。我々にとっても、ガレマール帝国は敵だ。いつ、あなた方と同じような境遇に陥るとも限らない。
……私が王宮に取り次いでみよう。結果までは保証できないが、話くらいはできるはずだよ。

ユウギリ：それは本当か！？

アルフィノ：任せてくれたまえ。こうみえても、お偉い方には顔が利くのでね。

ユウギリ：かたじけない、助かる。

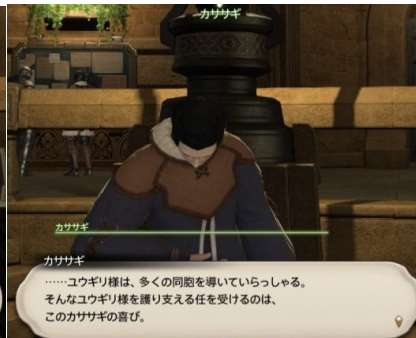
アルフィノ：しかし……ユウギリ殿。あなたは、ずいぶんと変わった身なりをされている。
……それに、このエオルゼアでは見慣れぬ種族のようだね。

ユウギリ：この格好については、無礼を許してほしい。姿形が異なる者が現れれば、いらぬ騒ぎを呼び兼ねない。
……そうした経験があるのでね。
我らは助けをこう身……この地に不要な波風を立てたい訳ではないのだ。

アルフィノ：……なるほど、それは賢明な判断だろう。無礼だなど、とんでもない。気にすることはないよ。

ユウギリ：理解と心遣いに感謝する。

アルフィノ：では、私はさっそくラウバーン局長に話をしよう。しばらくの間、この方々の面倒をみてやってくれ。



キキョウ : ユウギリ様は、祖国を出てからというもの、常に先頭に立ち、苦難に満ちた旅路を導いてくれました。キキョウは、ユウギリ様のお身体が心配です……。

カササギ : ……ユウギリ様は、多くの同胞を導いていらっしゃる。そんなユウギリ様を護り支える任を受けるのは、このカササギの喜び。

ユウギリ : ……心遣い、感謝する。我らは、東州オサード小大陸の辺境都市「ドマ」から数ヶ月をかけて、この地までたどり着いた。準備を整える間もない逃避行でな…… すぐさま食料は底を突き、多くの犠牲を出した。ここしばらくは、ろくな食事摂れていない。せめて船に残してきた子どもたちだけでも、腹にたまるものを食わせてやりたい……。どうか、この店の店主に、頼んでみてもらえぬだろうか？



モモディ : ……まあ、そんなことが！？ あの方たちも大変だったのね……。ちょうど大口の予約がなくなって、手配していた食材を持て余していたところだから、喜んで提供するわよ。余った食材をベスパーベイに転送するよう依頼書を作るから、ザル回廊のサファイアアベニュー国際市場にいる、「フリードウリッヒ」と「カテリーヌ」に渡してちょうだい。

素材屋 フリードウリッヒ : モモディさんから、食材の転送依頼だって……。ああ、余っちゃってる食材の件だな。どれ、依頼書を見せてくれ。……わかった、食材は転送するとモモディさんへ伝えてくれよ。それにしても、また難民か……。貧乏人が増えて、治安が悪化しなければいいんだが……。

料理屋 カテリーヌ : モモディさんが、余らせた食材を転送したいって？ ……いったい、どういことだい。依頼書をよく見せておくれよ。……タダで食材を譲ろうってのかい、お人好しだねえ。まあ、こっちはお代を頂けてるから、いいんだけどさ。モモディさんに、引き受けたと伝えとくれ。

モモディ : お帰りなさい、依頼書を渡せたかしら？ ……ふむ、無事に、食材はベスパーベイへ送られたようね。さあ、早くユウギリさんにも教えてあげて！

ユウギリ : 食料をベスパーベイへ送っていただいたと！？ ……かたじけない、この恩は決して忘れはせぬ。後ほど、私からも店主に礼を伝えなければ……。

アルフィノ : どうにか、不滅隊のラウバーン局長を通じて、ナナモ陛下に取り次いできたよ。

ユウギリ : では……！

アルフィノ : ああ、謁見をしてくださるそうだ。ナナモ陛下は、相談役たる「砂蠟衆」も招集された。この国の権力者たちに談判できるぞ。

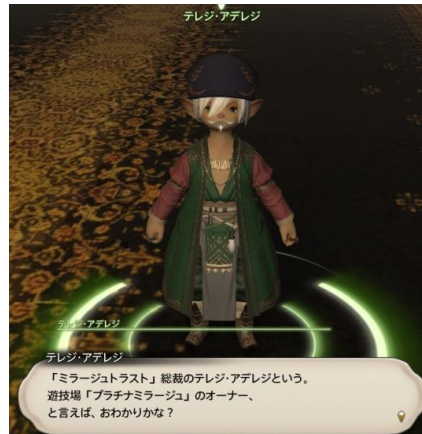
ユウギリ : ……かたじけない、恩に着る。

アルフィノ : よしてくれ、大したことはないよ。……ただ、先程も言ったように結果にまでは責任を持ってない。何かしら、力になってはやりたいのだから……。

ユウギリ : ……心得ている。場を用意していただけただけで、ありがたい。

アルフィノ : では、「ロイヤル・ブロムナード」に向かうとしよう。ラウバーン局長がお待ちだ。

テレジ・アデレジ : 「ミラージュトラスト」総裁のテレジ・アデレジという。遊技場「プラチナミラージュ」のオーナー、
と言えば、おわかりかな？
富とは、良き人材から生まれるもの……。それには出自は関係ない、たとえ難民であろうとものな。



アルフィノ : ユウギリたちの処遇は、砂蠟衆の面々が、難民になんらかの価値を見出すかどうか、それ次第だろうな……。

カササギ : ウルダハは、ガレマール帝国を相手に、一歩も退くことなく、戦い抜いてきた都市と聞く。
いわば我らは敵を同じくする同志のはず……そうだろう？

キキョウ : ナナモ陛下……。理解のあるお方だといいいのですが……。

ユウギリ : このウルダハは、実利を重んじる都市と聞いた。我々に利用価値があると示せば、あるいは……。

ラウバーン : ……来たか。ナナモ様、それに砂蠟衆の面々は、すでに香煙の間でお待ちだ。我輩たちも行くでしょう。



ユウギリ : 会談に応じていただき感謝いたす、砂の女王よ。本来ならば、東方ゆかりの品々を持参し、礼を尽くすべきところ……
しかし、落ち人たる我らには、富も時間もありません。無礼を承知で、嘆願させていただきたい……
我らドマの民を、ウルダハに受け入れてくださるぬか。

ナナモ・ウル・ナモ : ウルダハ第十七代国王、ナナモ・ウル・ナモである。……ユウギリといったか、まずは楽にされよ。
アルフィノより、話は聞いている。なんでも、ガレマール帝国に祖国を滅ぼされたというが……。



ユウギリ : 左様です、陛下。……帝国は現在、次期皇帝争いを機とした内乱の渦中。内乱の影響は帝都をもちろん、辺境にまで及んでおります。我々ドマの民は、その混乱に乗じ、ガレマール帝国からの独立戦争に挑んだものの敗北。従属か滅亡か……帝国は見せしめに我らの都を焼いたのです。

ラウバーン : 貴公らは、ドマからの船で海を渡ったという。難民の数はいかほどだろうか。

ユウギリ : 商船に擬装した大型船が一隻……。その船倉には二百を超える同胞が、身を寄せ合っております。……ただし我らも、ドマから逃れた船の一隻に過ぎませぬ。こちらで受け入れていただければ、可能な限り同胞を呼び寄せたいと願っております。無論、タダでなどと都合の良いことは思っておらぬ。我らを兵や働き手として使って構わない。

ラウバーン : どうであろう、砂蠟衆の方々。

テレジ・アデレジ : 良い提案ではないか。第七霊災からこっち、復興やら開拓やらで、人手が不足しているのは確かなのだ。

アルフィノ : 彼は「ミラージュトラスト」の総帥、テレジ・アデレジだ。ウルダハ金融界を牛耳っている男さ。

ラウバーン : 異国の民だ……法の整備は必要になるうが、それを前提とした上でも、受け入れを検討してよいのではないか？

ロロリト : 残念ながら、賛成はできかねますな。



テレジ・アデレジ : なぜです、ロロリト殿。

ロロリト : 現状を見よ！ 霊災難民とアラミゴからの流民で、すでにウルダハは溢れているではないか。しかも、そのほとんどは、すでに5年以上も居座ったままだ。不滅隊が打ち出した難民救済策により、難民に支払う援助金は増える一方。かつて「黄金都市」と呼ばれた面影もないほど、国庫の状況は逼迫しておるではないか。とてもではないが、異国の民など受け入れる余裕はない！それに、近頃は難民による犯罪も増えている。テレジ・アデレジ殿にも、報告があがっているよう？難民の多くは職を持たず、悪事に手を染めている。今や、不滅隊と銅刃団を回しても、検挙しきれぬほどになっているのだ。

アルフィノ : 彼はロロリト……東アルデナード商会の会長で、百億ギルの男と言われるほどの富豪だ。……砂蠟衆における、事実上の最高権力者だよ。

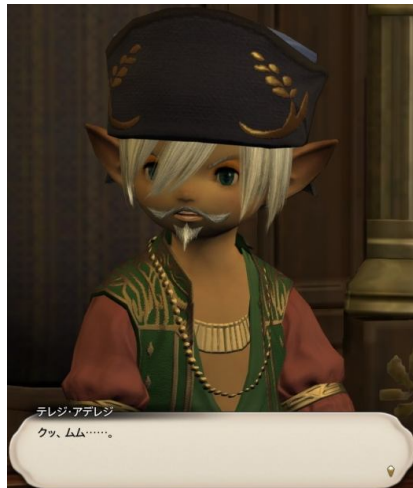
ナナモ・ウル・ナモ : ……ロロリト。いくら財政が逼迫しているからとはいえ、ユウギリの団くらゐの受け入れは可能なはず。犯罪に関しても、きちんと法を引き直し……。

ロロリト : これはこれは……。面白いことを申されますな、ナナモ陛下。その法とやら、いつになったら、王党派から提示していただけるのです。アラミゴからの難民がザナランに集い、何年になります？あの時も、法だ法だと言いながら、結局は、放置同然にリトルアラミゴを渡しただけではありませぬか。

ラウバーン : 口が過ぎるぞ、ロロリト殿！

テレジ・アデレジ : しかし、人は宝だぞ。将来的に、このウルダハを強くする礎となるやもしれん。労働者としての受け入れを再度検討してみるの……。

ロロリト : だから、テレジ・アデレジ殿はぬるいと言われるのだ。……人や金は、国の柱だ。国の礎は、堅固な統治にほかならない。今必要なのは、ウルダハを強くする礎だ。風化した礎に柱を建てたところで、ウルダハを強くすることなどできようか。そういえば、テレジ・アデレジ殿。最近「プラチナミラージュ」も売上が振るわないようではないか。安い賃金で難民をこき使った結果、質まで落ちてきているのではないかね？



テレジ・アデレジ : クッ、ムム……。



ラウバーン : 双方、落ち着かれよ。……では、採決を取りたい。
ドマからの難民を受け入れるか、否か。受け入れに賛成の者はこの場に残り、反対の者は退出していただきたい。



ナナモ・ウル・ナモ : すまぬ、ユウギリよ……。この国では、王の力などこの程度のものなのだ……。
王権は弱まり、今や砂蠟衆の合議なくして国は動かさぬ。わらわが不甲斐ないばかりに……。



ユウギリ : いえ、ナナモ・ウル・ナモ陛下。ご検討いただいただけでも、有難き幸せ。

テレジ・アデレジ : ……しかしロロリトの奴め、腹立たしい。リトルアラムゴの現状は、陸路による東方貿易を放棄した奴の責任もあるではないか。
はるか遠方から必死の思いで来たのだ。なんとかしてやりたいのだが……。

ラウバーン : ようやく、グランドカンパニーを軌道に乗せたというのに、この国は未だひとつになり切れてはおらん。
共和派……いや、ロロリトが力を持ちすぎている。このままではいずれ……。
すまない、内輪の話だな。一旦、外に出るとしよう。

安息できる場所

ラウバーン : くそ、ロロリトの奴め……。相も変わらず、私腹を肥やすことばかりを考えおって。ウルダハの宝は民だ。財を投じて難民を受け入れ、その才を用いてこそ、さらなる繁栄を手に入れることができるというのに……。……やれやれ、愚痴を言っても始まらない。後ほど「不滅隊：作戦本部」に、顔を出してくれ。関係者を集め、今後の話を詰めねばな……。

キキョウ : ユウギリ様は気丈に振る舞われていますが……。船で待つ同胞の命を引き受け、重責ははかり知れませぬ。キキョウが、ユウギリ様を支えなければ……。

カササギ : まさか受け入れられぬとは……。我らは、どこへいけばいいというのだ……。

ユウギリ : ……船で待つ同胞が、心安らかに居られる地を、なんとかして探し出さねば……。

アルフィノ : やはり、ロロリトが難民の受け入れに難色を示したか……。ウルダハの歪みが、もろに出た形となってしまったな。

テレジ・アデレジ : 流入する難民を受け入れるのは時流だ。問題は、いかにしてウルダハと難民の双方に、利をもたらすか、それが政治なのだよ。

ラウバーン : ウルダハは今、共和派の勢力が強すぎる状態だ。王党派……ナナ様を持ってしても、あのとおり。再度集ったところで、結果は変わらんだろう。

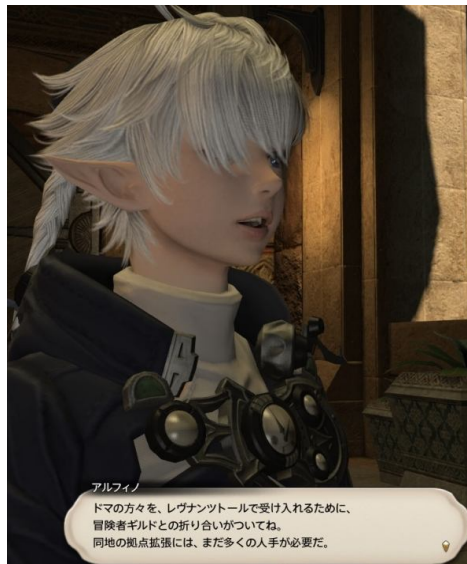
アルフィノ : まさか、ドマ難民の受け入れが、ああも拒絶されるとはね……。ウルダハは、エオルゼアいちの経済大国だ。……ここに断られるようでは、ほかの都市で嘆願したところで、結果は同じだろう。それに、ラウバーン局長のいうとおり、今のウルダハは、王党派と共和派の均衡が大きく崩れている。……我々は、そこに足を踏み入れるべきではない。難民の中には、子どももいるという話だったな……。あまり、悠長にしている余裕はない……か。私だ、アルフィノだ。例の件だが……。

ユウギリ : 我らのために尽力していただき、感謝する。……わかっていたつもりだが、やはり、放浪の民は忌むべき存在なのだ。……しかし、我らも戻る故郷はない。せめて、一時の宿でもあればよいのだが……。

アルフィノ : ……それはよかった、急がせてすまなかったね。では、後ほど。待たせたね。ユウギリ殿、なんとかなりそうだよ。

ラウバーン : ……どうのことだ？

アルフィノ : ドマの方々を、レヴナンツツールで受け入れるために、冒険者ギルドとの折り合いがついてね。同地の拠点拡張には、まだ多くの人手が必要だ。ミンフィリアに当たってもらっていたのだが、交渉が上手くいったようだ。……ただし、条件がある。「**レヴナンツツール開拓団**」となり、彼らに協力すること。それでよければ、君たちの一団を受け入れるとのことだが……。……いかがだろうか？



ラウバーン : なるほど、それは妙案だ。レヴナンツツールは、いずれの国にも属さず、政治的干渉も少ないしな……。

テレジ・アデレジ : つまり、ロロリトのような輩の影響も薄い。我々としても、援助しやすいというものだよ。

ユウギリ : ……わ、我らを受け入れてくれるのか！？ も、もちろん、承諾させていただく！
皆々の誠意に、心より感謝する……。

アルフィノ : しかし、レヴナンツツールは遠い。疲れ果てたドマの方々の移動には、準備が必要だろう。
ウルダハの冒険者ギルドにも、協力を仰いだほうが良いな。私は、この足で「クイックサンド」へ向かう。
◆◆◆、君もあとで来てくれ。

ラウバーン : ならば我々は、銅刃団と不滅隊の一部を支援に回そう。……ユウギリ殿、いっしょに来てもらえるかな。
貴公らの一団の規模を、今一度説明してほしい。

アルフィノ : ウルダハの冒険者ギルドの協力を取り付けた。移動の際には、人手を回してくれる手筈になっている。
モモディ女史も、はりきっておいでだよ。
……ドマ難民の多くは、未だ船上だ。レヴナンツツールへの旅に備えてもらうためにも、
ひとまずウルダハに案内し、休息を取ってもらおうと思う。
その旨を伝えたとこ、モモディ女史が、ウルダハ滞在中の面倒を見てくれると言ってくれてね。まったく心強い存在だよ。

ラウバーン : アルフィノ殿、首尾はどうか？

アルフィノ : 上々といったところだよ、ラウバーン局長。ドマの方々の輸送は、このまま私が指揮を執ろう。

ラウバーン : それは助かる。……しかし、このままでは「足」がたりぬな。
ユウギリ殿の話では、難民の数は二百強。それに、多くの積荷があるという。
これらの輸送には、それ相応の輸送手段が必要だ。さて、どうしたものか……。

テレジ・アデレジ : ラウバーン局長、それについては私に案がある。ロロリトの息がかかっていない、**隊商互助会**の連中に、
チョコボ・キャリッジを回させよう。
費用は私がもたせてもらうよ。なに、「厄介者を僻地に送った」とでも言っておけば、ロロリトの奴も文句は言うまい。

ラウバーン : うむ、それはいい。隊商互助会には、我輩から話を付けておこう。現地での段取りは任せていい？

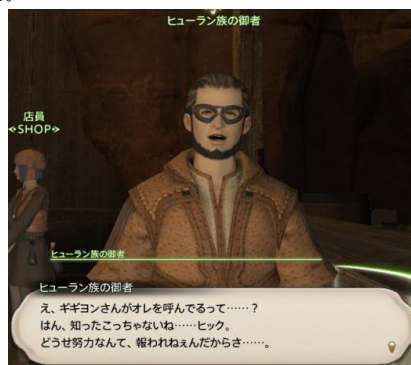
テレジ・アデレジ : ウルダハの政治を担うものとして、貴公らに何もしてやる事ができなかったからな。
せめて、「足」くらいは用意させてもらいたい。
それに、働き口で困ったときには、私を訪ねてくるといい。いくらかなら、ウルダハで職を用意しよう。

ユウギリ : ……何から何まで、かたじけない。

モモディ : さあ、ユウギリさんたちはこっちへ！ ちょっとした手続きをお願いしたいの。……お茶でも飲みながら、ね。

アルフィノ : 隊商互助会の商人「**ギギヨン**」がいるのは、西ザナランの「**スコーピオン交易所**」とのことだ。
彼と移送作業を進めてくれ、私は受け入れ準備を進めよう。

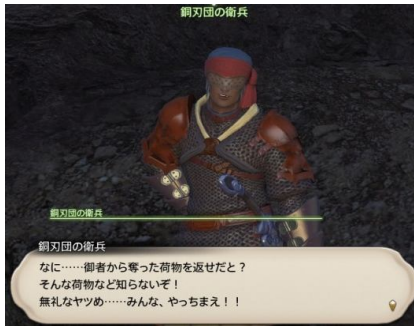
ギギヨン : どうもどうも、不滅隊から連絡を受けています。ただ……御者のひとりが行方をくらましておりまして、
動かせるキャリッジが足りんのです。
その上、件の御者に任せた荷物が、取引先に届いていないとかで苦情が来る始末。たいそう頭が痛い状況で……そうだ！
冒険者さん、問題の御者を連れ戻してくれませんか？ おおかた、酒房「コッファア&コフィン」あたりで、
飲み潰れているでしょうから。



ヒューラン族の御者 : え、ギギヨンさんがオレを呼んでるって……？ (はん、知ったこっちゃないね……ヒック。どうせ努力なんて、報われねえんだからさ……。
なあ、オレの不幸な話を聞いてくれよ……ヒック。オレがまじめに配達したら、銅刃団の連中が難癖つけて、
法外な罰金を要求してきやがったんだ……。
連中ときたら、オレが文無しと知るや、配達中の積荷に手を出しやがったんだ！ あまつさえ、大枚はたいて買った婚約指輪まで！！
ああ、オレの人生、お先真っ暗……ヒック。せめて、奪われた荷物や指輪を取り戻してくれる
親切な人が現れれば、生きる気力もわくのに……。

ヒューラン族の御者 : 奪われた物を取り戻してくれる親切な人が現れればなあ……。そんな人が、オレに「アピール」してくれば、
生きる気力もわくのに……。
え、あんたがオレの荷物を取り戻してくれるのか！？ ……なんて親切な人だ！！ 世の中、捨てたもんじゃないな！
オレの荷物を奪った銅刃団は、いつも西ザナランの「ノフィカの井戸」あたりで仕事をサボって、たむろってる連中だ。
ただ……ヤツらの中に凄腕がいるらしく、並みの冒険者じゃ歯が立たないって話だ。
あんたなら心配なさそうだが……用心に越したことはないぞ。

銅刃団の衛兵： なに……御者から奪った荷物を返せだと？ そんな荷物など知らないぞ！ 無礼なヤツめ……みんな、やっちまえ！！



銅刃団の衛兵： ひいいい、なんて強いんだ！？ 奪ったものは返します！ い、命だけは助けをっ！！

ヒューラン族の御者： 奪われた荷物や指輪が戻ってくれば、また生きる気力もわいてくるってものだが……。
おお、これはまさしくオレが奪われたもの！ ありがとうよ、生きる気力がわいてきたぜ！
これで胸を張って、交易所へ戻るってもんだ。
まずは、配達しそこねた荷物を配達するから、あんたはスコーピオン交易所の「ギギヨン」さんにオレが仕事を始めた伝えてくれ！

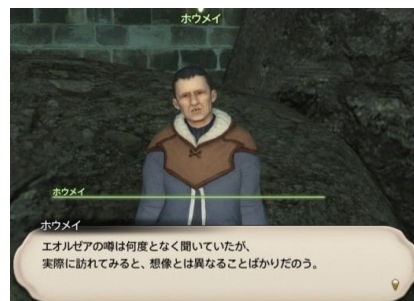
ギギヨン： ……御者が仕事に戻ったと？ やれやれです。あなたのおかげで、積荷も御者も無事に戻りましたね。
これで、難民移送の準備に入れるってもんです。
そういえば、さきほど「アルフィノ」という方から、移送の作業状況の問い合わせがありましてね……。
お知り合いでしたら、万事順調とお伝えください。

アルフィノ： 移送準備の方は順調のようだね。こちらも、モモディ女史の助力のおかげで、一時滞在の受け入れ準備が整ったところさ。
ドマの方々には、難民船からの上陸をお願いしてある。君に、その出迎えを任せてもいいだろうか。

ドマの人々

アルフィノ： ドマの方々を出迎えてもらいたいのだが、何せ、レヴナツツールでの受け入れも急な話だ。先方の準備が整っていない。
現地の準備が整うまでの間、ドマの方々には、宿屋「砂時計亭」で、いったん身体を休めてもらおうと思う。
モードゥナまでの移送には陸路を使う。ザナランの荒野を抜け、黒衣森を通して、
クルザス方面から回り込む……長く厳しい旅路となるからね。
長旅に備え、早急に、ウルダハへ案内するのがいいだろう。君は、**ベスパーベイ**に向かい、
「ハウザン」というドマの民を手助けしてほしい。

ハウザン： おお、「暁」の方か。我々ドマの民の受け入れに、尽力していただいたと聞いている。かたじけない。
……なんと、出発の準備まで手伝ってくださいと？ 何とお礼を言っているやら……。
実は、荷物の運び込みに難儀していたところなのだ。
祖国では、力自慢でならしたものが…… なにぶん、長い船旅で満腹に食事もとれずに過ごしたもので、
体力が衰えてしまったらしい。
フェリードックにある「古びた木箱」をここまで運んでもらいたい。少々かさばり申し訳ないが、よろしく頼むよ。



ハウメイ： エオルゼアの噂は何度となく聞いていたが、実際に訪れてみると、想像とは異なることばかりだのう。

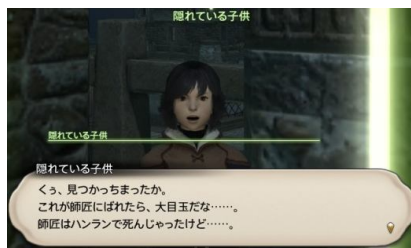
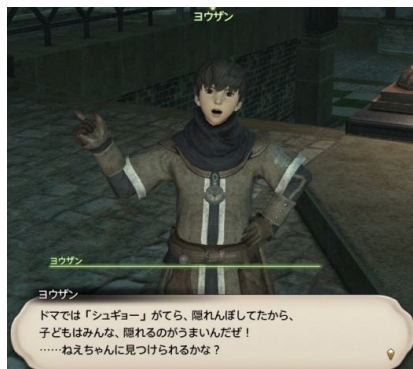
ホウザン： かさばる箱を運んでくれて、助かったよ。あれには、私の父が若かりし頃に武勲を挙げ、主より賜った甲冑が入っていてね……。
これほど重いものを運んでもらって、恩に着る。わが父が主より賜ったこの甲冑は、黒塗りの小札（ござね）に覆われた見事なものなんだ。
見てみるかい……はっ！ なんと、甲冑の「黒塗りの小札」が外れて……。……それも、数が足りないぞ！
ああ……長期間、船に揺られたせいで、古い鎧も、それを納めていた木箱も傷んでいたんだ。
小札さえあれば、私でも修繕できるが……。
この無残な甲冑を見たら、父が卒倒しかねない……。申し訳ないが来た道に戻り、甲冑から落ちた、「黒塗りの小札」4つを拾い集めてもらえないか。
命がけで祖国を脱出するときでさえ、父が手放さなかった甲冑なんだ……。新天地にも、何とか持っていってやりたいんだよ。

ホウザン： ああ……長期間、船に揺られたせいで、古い鎧も、それを納めていた木箱も傷んでいたんだ。
今の無残な甲冑を父が見たら、卒倒するにちがいない……。
ありがとう、本当に助かったよ！ この「黒塗りの小札」が手元になれば、私でも修繕はできる。
そういえば、エオルゼアの甲冑は、私たち祖国のものとは、ずいぶん趣が異なるね。
遠くまで逃げ延びてきたっていうことを実感するよ……。

ドマの子どもたち

ホウザン： おかげで、荷物の積み込みは、おおたか片付いたよ。そろそろ第一陣を出発させたいんだが……。困ったことに、子どもたちの姿が見えなくてね。新しい土地に興味津々なんだろうが、困ったもんだ。捜し出して、呼び戻してくれないだろうか？
せがれの「ヨウザン」に声をかけてもらえば、ほかの子どもたちの居場所もわかるだろう。

ヨウザン： ねえちゃん、オレたちを迎えに来てくれたのか？ ……次は、ウルダハってところに行くのか！？
でも、もう狭くくしく臭い船には乗りたくねえよ……。
船じゃなくて、チョコボ・キャリッジってのに乗るの？ ……すげえ、馬じゃなくて鳥がひく車なんだ！？
オレ、はやく乗ってみたい！
あ、でもオレたち今、隠れんぼしてるんだよね～。ねえちゃんが、隠れてる3人を捜して、みんなに「出発するから父ちゃんとここに集合」って伝えてよ。
ドマでは「シュギョー」がてら、隠れんぼしてたから、子どもはみんな、隠れるのがうまいんだぜ！
……ねえちゃんに見つけられるかな？



隠れている子供： わー、びっくりした！ ……お姉ちゃん、誰？ あたしはコハル！
コハル： ……そろそろ出発だから、ホウザンおじさんとここに帰って？ わかった、すぐいくねー。
……もしかしてお姉ちゃんは、ユウギリ様の知り合い？ ユウギリ様って、強くて、賢くて、優しくて、かっこいいよね？
あたしの夢は、ユウギリ様になることなの！

隠れている子供： ぐはあ、見つかった……って姉ちゃんは誰？ え、ウルダハってどこに出発するから、呼びに来てくれたの……？
わー、どんな街なんだろう！？ さっきもらった食べ物より、おいしいものあるかな！？
はやく出発したいから、あたし、今すぐ戻る！

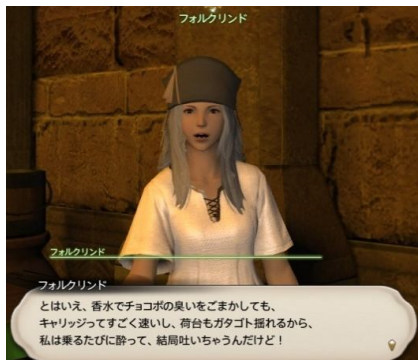
隠れている子供 : くう、見つかったか。これが師匠にばれたら、大目玉だな……。師匠はハンランで死んじゃったけど……。え、出発するからハウザンさんのところへ戻って？　へー、ウルダハってどこに行くのか。安心して眠れるところだといいな……。

ハウザン : 子どもたちは全員戻ってきたよ、ありがとう。……なに、隠れんぼをしていた、だって？　そうか、今でもあの子らは、ドマの日々を忘れず、修行を続けていたのか……。いかんいかん、ちょっと感傷的になってしまったよ。さて、ほかの者たちは、すべて出発したことだし、残りの私たちも……といきたいところなんだが、厄介な問題が起きていてね。

チョコボにまつわる小事

ハウザン : 「暁」をはじめ、多くの方の協力のおかげで、ようやく出発の準備が整ったというのに……。……うちの愚父が、この場に残ると言い張ってるんだ。なんでも、チョコボの臭いに耐え切れないようで、チョコボ・キャリッジに乗るつもりがないらしい。私はそこまで気にはならないんだがね……。ウルダハへの移動はチョコボ・キャリッジに頼るしかない。……チョコボの臭いを解決しないことには、父がウルダハの地を踏むことはないってわけだ。エオルゼアの人は、チョコボの臭いを、どうガマンしてるんだ？　情報が集まる酒場にいる女性に聞いてみてくれないか。臭いは女性の方が敏感だろうからな……。

folk : チョコボの臭い……。？　慣れないと吐きそうになるわよねえ。私の場合は、チョコボに香水をかけて耐えてるわ。少し分けてあげるから、試してみたら？　とはいえ、香水でチョコボの臭いをごまかしても、キャリッジってすごく速いし、荷台もガタゴト揺れるから、私は乗るたびに酔って、結局吐いちゃうんだけど！

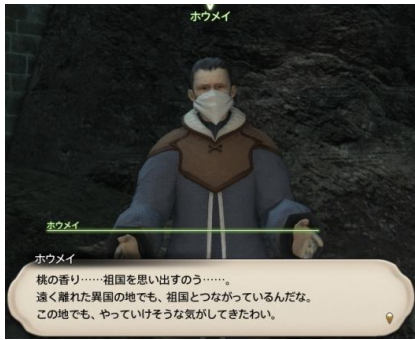


Hyluran : 難民の移送は、任せておけ！　結婚式の資金を稼ぐためにも、働くぞ！　おいおい、チョコボにヘンテコなものかけないでくれよ！　……って、あんた、オレの恩人じゃないか！！でも、イタズラするのはいただけないな。こうみえて、チョコボは繊細なんだ。変な臭いがすると、怯えて暴走しちゃうんだよ。ガタゴト揺れる荷台になんて、乗りたくないだろ？　……とはいえ、コイツは、それほど気にしてないようだな。それとも、香水の効きが悪かったのかな？　あんた、チョコボの臭いをかいで確認してみたらどうだ？

Hyluran : あっはっは、チョコボの臭いをまともに吸い込んだら？　お上品な香水ごときじゃ、この臭いは消えないようだな。どうりで、コイツも平然としてるわけだ。そうだ、チョコボの臭いがガマンならないってんなら、「奥の手」があるぞ？　……ヤツらのマネをすればいいのさ。「奥の手」を詳しく聞きたいって？　簡単なことさ、ヤツらのマネをすればいい。……そう、ゴブリンどもさ。ゴブリンは、エオルゼアの空気が合わないってんで、マスクの中に薬草をつめてるって聞いたぜ。そのマネをすればいい。このスカーフに、さっきの香水をしみこませて、鼻を覆うようにつけるんだ。これで、吸い込む空気は、いつだって桃の香りさ。

ハウザン : エオルゼアの人たちは、チョコボの臭いを、どうガマンしてるのだ……。？　おや、これは桃の香り……。……なるほど、スカーフに匂いをしみこませたのか。これは確かに名案だ。さっそく、スカーフを父へ渡そう。これなら、頑固な父……ハウメイも気に入るはずさ。さて、出発の準備が整ったら、声をかけてくれよ。

ホウメイ : 桃の香り……祖国を思い出すのう……。遠く離れた異国の地でも、祖国とつながっているんだな。この地でも、やっていけそうな気がしてきたわい。



ホウザン : やれやれ、父はスカーフをいたく気に入って、チョコボ・キャリッジを降りても、使い続けるつもりらしい。スカーフの桃の香りで、祖国を思い出したのだな。ドマでは桃の栽培が盛んで、主要な交易品だったのさ。もっとも、祖国が帝国に蹂躪されるまでの話だがね……。……過去を悔んでいる場合じゃないな。この地で、新たに生きていかなくてはならないんだから。

ドマの民、ウルダハへ

ホウザン : 聞いているだろうが、こっちは大所帯でね。提供してもらったチョコボ・キャリッジの台数では、一度に移動しきることはできない。そこで、数度に分けて移動するつもりなんだ。第一陣は、ユウギリ様と老人や子どもたちが乗り込む。それと、世話役として私もね。すでに、バスパーベイの入口に集合してるはずだ。君も私たちと一緒に来て、キャリッジの御者に、出発できると伝えてくれないかな？

ホウメイ : お主のおかげで、チョコボ・キャリッジの心配はもうない。いつでも、第一陣として、ウルダハへ旅立てるぞ。……ウルダハとは、どんな土地じゃろうな……。

ヨウザン : チョコボって、くっさいんだなあ！ 船のほうが、ましだったかも！

コノリル : チョコボ、ふっさふさでかわいい！

ホウザン : 第一陣の準備は整っている。いつでも出発できるのだが……厄介事のようなだな。

ヒューラン族の御者 : おっと、出発準備が整ったのか。……あいにくだが、今すぐ出発はできそうにないな。何でも、この先にある橋の辺りで、この周辺には見られない魔物が出たそうだ。さっき、銅刃団から警戒するように言われたばかりでね。子どもや老人を満載した状態で襲われたらどうなるか……。……そういえば、あんた、腕利きだったな。先行して安全を確保してくれないか。金鎧台地の「指定地点」で見渡し、発見した魔物を討伐してくれ。安全だってわかるまで、近場で待機しているよ。

ホウザン : ……いよいよ、ウルダハへ出発するんだな。何から何まで世話になった。

ヨウザン : チョコボ・キャリッジって、馬よりもゆっくりだな！？

コノリル : チョコボ・キャリッジの乗り心地はなかなかいいね！

ヒューラン族の御者 : 魔物を討伐してくれたようだな、助かったよ。さて、そろそろ出発しようぜ！

ホウザン : 魔物を退治してくれて助かったよ。これで、無事にウルダハへ行くことができそうだ。

ホウメイ : ……お主たちは、冒険者というのだろうか？ 魔物を相手にしても、物怖じせんとは。いやいや、大した腕前だわい。

ホウザン : 我々の故郷には、冒険者という稼業はなくてね。……君たちのような猛者がいれば、今もドマは在ったのかもしれない……。……いや、それは甘えか。ガレマール帝国に反乱を起こしたのも、それに敗北したのも、ドマの民である我々自身だものな……。

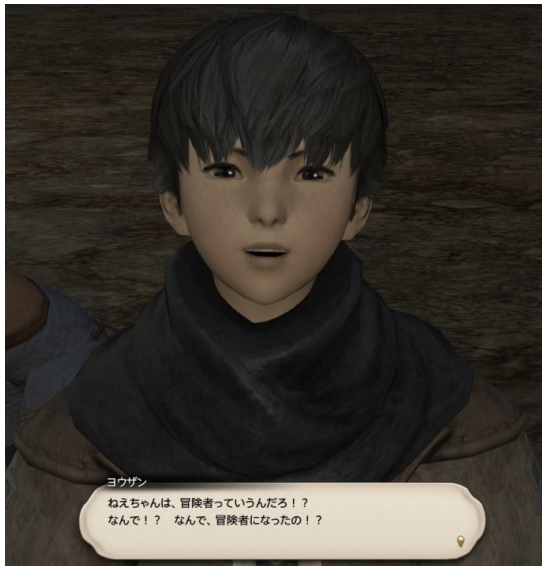
ホウメイ : 指導者のユウギリ殿は、先の戦で多くの同族を亡くしてな。それでも、わしらを率いて最後まで戦ってくだすった。果ては、この地に辿り着いてからも、わしらのために、住処や働き口まで探してくださっておる。まったく、あのお方には頭が上がらんわい……。

ホウザン : 次は、我々が立ち上がる番だ。……今度は、開拓団としてね。レヴナンツツールは活気があるところだと聞く。私たちドマの民の底力で、もっと賑わう集落にしてみせるよ。

ヨウザン : ねえちゃんは、冒険者っていうんだろ！？ なんで！？ なんで、冒険者になったの！？

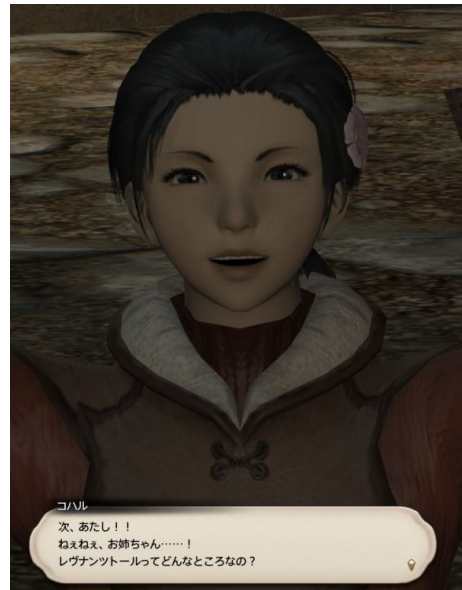
力を求めて
名誉を求めて
富を求めて
答えない

ヨウザン : なんだよー、教えてくれてもいいじゃん！ ……いいよーだ、あとで父ちゃんに聞くもん！



ヨウザン

ねえちゃんは、冒険者っていうんだろ！？
なんで！？ なんで、冒険者になったの！？



コハル

次、あたし！！
ねえねえ、お姉ちゃん……！
レヴナンツツールってどんなところなの？

コハル： 次、あたし！！ ねえねえ、お姉ちゃん……！ レヴナンツツールってどんなところなの？

コハル： 冒険者って、お姉ちゃんみたいなの？ みんな強いのかな……なんだか、ドキドキしてきた！

ヨウザン： 今度、オレの番！ ねえちゃんってさ、すげー強いけど、どうやって強くなったんだ！？

冒険をして
魔物を倒して
訓練をして
答えない

ヨウザン： ……やっぱりヒミツかー。そうだよなあ、未来の「コウテキシュ」に、強さの秘訣を教えられるわけねえよなあ……。

ホウザン： こらこら、お前たち。そろそろ質問は終わりだ。お姉さんも困っているぞ。

コハル： えええ……。もっと話したいのに。

ヨウザン： ねえ、ねえちゃん、最後に教えて！ オレたちも、ねえちゃんみたいな、カッコいい冒険者になれるかな！？

ヨウザン： ホント！？ やった！！ オレ、大きくなったら冒険者になるよ！

コハル： あたしも！！ お姉ちゃんみたいな冒険者になる！

ヨウザン： そうだ、いいこと考えた……！ レヴナンツツールに着いたら、オレたちで「ドマ冒険者団」を作ろうぜ！
「ドマ冒険者団」は、ワルモノからドマの民を守る正義の集団なんだ！ 悪いやつらに「デンチュー」を下すんだよ！

コハル： すてきー！ さんせー！ あとで仲間を集めなくちゃね！

ホウザン： さあ、行こうか。君もウルダハまで乗っていくといい。

ヒューラン族の御者： さて、ウルダハに到着だ。クイックサンドに「アルフィノ」さんがいるそうだが。先に行って、難民が到着したと伝えてくれよ。

ヨウザン： 丸っこい塔がいっぱいだあ……。

コハル： 階段いっぱい……。これ……のぼらなきゃいけないの……？

ホウメイ： ウルダハか……。さて、どんな土地じゃろうな……。

ホウザン： ……ここが、ウルダハか……。クイックサンドへ向かうよう言われているから、落ち着いたら向かうとするよ。

ユウギリ： 同胞は、しばらくウルダハに滞在することになる。ドマとは異なる雰囲気的地……。なじめるといいのだから。

キキョウ： 難民の第一陣がウルダハに到着して、ユウギリ様も、少し肩の荷がおりた様子。でも、まだまだ難問は山積みです。

カサザギ： 難民の第一陣がウルダハに無事到着できたのは、あなたのご協力のおかげだ。……感謝する。

アルフィノ： ひとまず第一陣が到着したようだね。無事で何より……ご苦労だった。
「秒時計亭」の準備は万端さ。ドマの方々には、さっそく宿で休んでもらおう。
……悪いが、君には、レヴナンツツールに行ってもらいたい。